



箱根写真美術館 箱根

Hakone museum of photography

日独交流 150 周年記念事業

カトリン・パウル展 ドイツの足跡 in 箱根

Ausstellung Katrin Paul

Aufschlagen - Deutsche Spuren in Hakone

会期：2011年9月23日(金祝) - 11月21日(月) 会場：箱根写真美術館

オープニングレセプション：9月23日(金祝) 15:00-17:00

2011年は日独交流150周年。

日本とドイツの交流は、1861年1月24日(万延元年12月14日)

に江戸で日本と当時のプロイセンが修好通商条約を調印して、

始まりました。

箱根写真美術館では、日本と縁の深い写真家カトリン・パウル氏の写真展を開催いたします。

パウル氏はフランクフルト・アム・マイン市に生まれ、ドイツと日本で写真の技術を習得しました。

1997年に来日、多摩美術大学で博士号を取得後、日本に住み13年に渡って創作活動を行ってきました。

今回展示される作品は、約65年前に箱根で過ごしたドイツ兵達の足跡からインスピレーションを受けて制作され

たものです。彼らの受けた衝撃、箱根で過ごした経験、日本人との心の交流による変化を、パウル氏ならではの

斬新な作品で表現する取り組みとなっています。

写真展示のほか、立体オブジェの屋外展示も致します。皆様にお楽しみいただければ幸いに存じます。

本展によって両国の文化や歴史、そしてその軌跡を感じて頂ければ大変嬉しく存じます。

日本とドイツが相互理解を深め、両国の結びつきが更に深まることを期待しております。



日独交流150周年
Jahre Freundschaft
Deutschland - Japan



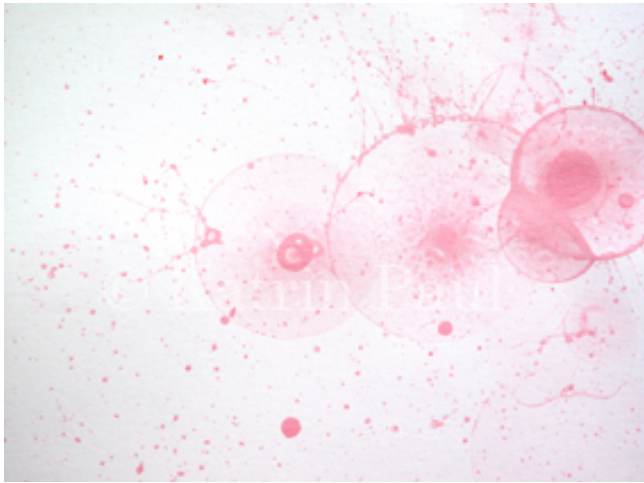
炎の本 Feuerbuch © Katrin Paul
<Paper, firecracker, smut> 2008



ふくらむ Aufgeblasen © Katrin Paul
<Photography> 2011

PRESS RELEASE

Hakone museum of photography



ぶつかる Aufgeschlagen © Katrin Paul
 < Paper, liquid soap, ink > 2011

避暑地として、保養地として、そして「避難」所として…。箱根は、過去150年にわたり、“故郷”のように多くのドイツ人を温かく迎え入れ、また送り出してきました。ノーベル賞受賞者やドイツ大使、海軍大佐や真珠商人といった著名人から今では忘れ去られてしまった旅人まで、彼らの足跡は当時の宿帳やガラスケースに収められた品々、書類、キャンパスに描かれた絵などにしっかりと残されています。

ドイツ人写真家でオブジェ作家でもあるカトリン・パウルは、箱根探訪の際にこの足跡に触れ、まったく新しい題材一劇的に始まるある箱根滞在の物語一に触発されたといいます。

それは、1942年も押し迫った年の瀬のこと。横浜港で壊滅的な爆発により1隻のドイツ艦船が遭難し、生き残った水兵たちが箱根に収容されました。強制的にやむなく箱根に送られた水兵たち。異境の地に居を定めることを余儀なくされた彼らは、このトラウマの事態をどのように受け止めたのでしょうか。この箱根で働き、生活を営み、そして心を休め、楽しく過ごすにいたる4年の年月の間に、彼らの内に起こった変貌とは…？

カトリン・パウルは、当時の戦時情勢における政治的側面には敢えて触れることなく、こうした彼らの心情に目を向けました。13年間、日本で暮らした彼女にとって、帰国したドイツは異境の地と信じられることさえあるといいます。そんな彼女自身の現在と水兵たちの当時の心情を重ね合わせた彼女のインスタレーション——。真っ白な地を焦がすことで表現された爆発の風景。シャボン玉の衝突が起す音のない破裂。爆薬として人を傷つけ、温泉となって人を癒す硫黄の痕跡。

こうした矛盾を孕んだオブジェを手法として表現される儚さや相克（ジレンマ）が、かつて箱根に生きた彼らに彷彿させるのです。

<作家紹介>カトリン・パウル Katrin Paul

◆経歴

ドイツ、フランクフルトに生まれる。ドイツのドルトムントで写真とデザインを、カールスルーエでメディアアートを学び、アメリカニューヨークに留学したのちに95年に初来日し、97年から文科省の奨学金で多摩美術大学大学院に留学、04年に多摩美術大学大学院にて博士号を取得。98年には最上環境芸術祭（山形県）のランドスケープ・アート・コンペティションで最上エコポリス大賞を受賞。東京、沖縄、大阪、富山、横浜、名古屋などで個展、グループ展に多数参加。

カトリン・パウル公式ホームページ

www.katrinpaul.com

◆主な展覧会等活動歴

(S) 個展 (G) グループ展 (K) カタログ

- 2010** 「Durchbeissen Katrin Paul im projektraum Schwarz」ベルリン (S)
 「岩国際現代美術展-人々と自然 in 鳥取」岩見 鳥取 (G)
 「UND#5」 PLATTFORM ZUR PRÄSENTATION VON KUNSTINITIATIVEN IN KARLSRUHE カールスルーエ、ドイツ
 「Aufgelöst Kristallisiert 融解・結晶」大阪クリエイティブセンター、大阪 (S)
 「sense perception・感覚による認識」The Third Gallery Aya、大阪 (G)
- 2009** 「Durchbeissen・くいしばる」遊工房アートスペース、東京 (S)
 「トロールの森 2009」 Open Air Art Exhibition 東京都立善福寺公園、東京 (G)
 「Dynamite 000」 東京アートコンテンツ、東京 (G)
 「ULTRAO02」 EMERGING・DIRECTOR'S・ART FAIR・'ウルトラ 002」、東京 (G)
 「UND#4」 PLATTFORM ZUR PRÄSENTATION VON KUNSTINITIATIVEN IN KARLSRUHE カールスルーエ、ドイツ (G)
 「 Lichtpunkt | 舞う」 西会津国際芸術村、福島 (S)
 「 10 centenarians circler | 凜と」 よりっせ西会津、福島 (S)
- 2008** 「20070714_No4」 遊工房アートスペース、東京 (S)
 Art Trace Gallery、東京 (G)
 「UND#3」 PLATTFORM ZUR PRÄSENTATION VON KUNSTINITIATIVEN IN KARLSRUHE カールスルーエ、ドイツ (G)
- 2007** 「寿限無 2007 -DocuART-」 ART BY XEROX (G)
 「ARE YOU IN LINE? 」 alpha Gallery、ホーチミン、ベトナム (S)
 「Yatsuo Slow Art Show」 Yatsuo、富山 (G)
 glue、ベルリン (G)
 「PaulSchwarzLopez」 Poly Galerie、Karlsruhe (G)
 「100 100 100 0 or 0 0 0 100 und des Teufels Grossmutter」 遊工房アートスペース、東京 (S)
- 2006** 「What have you got to say?」 Mana Fine Arts Jersey City、アメリカ (G)
 「沖縄まちアート夏祭り“うまんちゅう”」 Contemporary Art Factory、東京
- 2005** 「wanakio」 沖縄 (G)
 「Sagamihara Photo-Festiva」 東京 (G-K)
 「Deutschlandjahr in Japan」 TÜV Rheinland Forum、新横浜 (S)
 Galerie Altes Rathaus、Inzlingen/Lörrach (G)
- 2004** KEOPS Project / The Flanders Center Photographic Gallery、大阪 (S)
 「International Art Book Fair」 ソウル (G-K)
 多摩美術大学美術館、東京 (G-K)
- 2003** 「wanakio」 沖縄 (G)
- 2002** 「Katrin Paul Solo Exhibition」 横浜美術館アートギャラリー／ヨコハマポートサイドギャラリー、横浜 (S-K)
 「wanakio」 沖縄 (G)
 「10-Jahres-Ausstellung HfG Karlsruhe」 Karlsruhe カールスルーエ、ドイツ (G-K)
- 2001** 「Best 12」 Contemporary Art Factory、東京 (G)
 「FIELDWORKS」 Contemporary Art Factory、東京 (G)
- 2000** 「PlayingSummer」 Gallery Shimada、東京 (S)
 「PlayingSummer」 富士フォトサロン、東京、大阪 (S)
 「PlayingSummer」 Gallery Ohm、München (S)
 「米なれど ちょっと紅さし 朝鏡」 ニコンサロン、東京
- 1998** アートフェスティバル in 鶴来'98、石川 (G)
 第3 回最上環境芸術祭「ランドスケープアート展」山形



ぶつかる Aufgeschlagen © Katrin Paul
<Paper, liquid soap, flour> 2011

- 会期中、作家カトリン・パウルによる
- アーティストトーク&ワークショップを実施
- 致します。
- 詳細日程等は、ホームページ www.hmop.com
- でお知らせ致します。

箱根に残るドイツの足跡

1942年11月30日、第二次世界大戦下、当時同盟国であったドイツ海軍の仮装巡洋艦と輸送船が横浜港で大爆発を起こす大惨事があった（原勝洋・横浜港ドイツ仮装巡洋艦爆破事件）。

帰国出来なくなったドイツ兵は、海軍従軍画家であった松坂屋13代目松坂康（故人）を頼り、1943年4月23日から1946年2月20日までの約3年10ヶ月を芦ノ湯松坂屋で過ごすことになった。

芦ノ湯松坂屋には、ドイツ兵達の写真やスケッチ等が残されているほか、芦ノ湯入口にはドイツ兵士の奉仕によって作られた『阿字ヶ池』、東光庵敷地内には滞在中に亡くなったドイツ兵士の墓石が現在も残っている。

また、1944年には戦局が切迫したため、外務省は在日外国人の疎開場所を箱根と軽井沢に決定し、ドイツ大使館員は富士屋ホテルを宿舎とした記録が残っている。

■ 展覧会期間限定！

■ 宮の下富士屋ホテルの宿泊優待料金のご案内

■ お問い合わせは

■ Tel. 0460-82-2211 又は

■ shukuhaku@fujiyahotel.co.jp

■ <http://www.fujiyahotel.jp/>

箱根写真美術館



[会場／問合せ先]

箱根写真美術館

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-432

電話 0460-82-2717 FAX: 0460-82-2717

URL <http://www.hmop.com>

e-mail info@hmop.com

開館時間：10:00-17:00

入館料：大人 500円(300円)()内は小中学生

※未就学児童は無料

休館日：火曜休館（祝日を除く）

※常設展「遠藤桂 富士山写真展」もご覧頂けます。

[主催等]

主催：箱根写真美術館

後援：ドイツ大使館／箱根町

協力：OAG ドイツ東洋文化研究協会

DAAD 友の会／鶴鳴館 松坂屋本店

富士屋ホテル

PRESS RELEASE

Hakone museum of photography